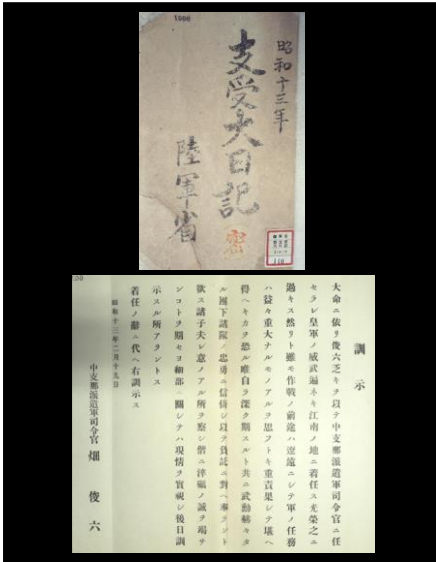


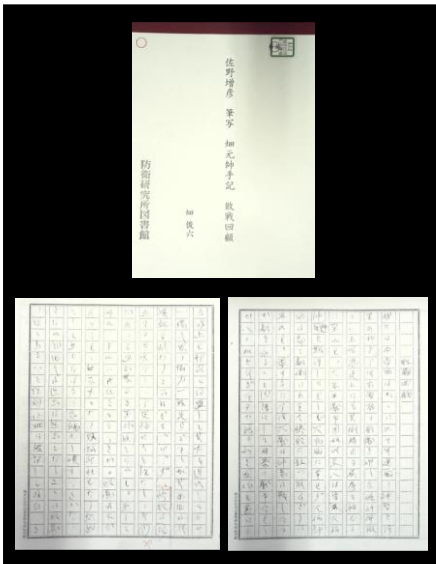
平成28年度も、各都道府県出身の陸海軍将官の中から毎号一人を取り上げて、戦史研究センター史料室が所蔵するその人物などに関連する史料を紹介しています。

《 畑 俊六 1879～1962年 》  
—福島県出身の陸軍大将—



**訓示** (登録番号: 陸軍省-陸支軍大日記-S13-7-116)

畑俊六大将は、明治33年11月、陸軍士官学校(12期)を卒業後、第14師団長、航空本部長、台湾軍司令官、教育総監などの要職を務めたのち、昭和13年2月14日、新たに編成された中支那派遣軍の司令官に就任します。着任前年の昭和12年7月7日、北支の盧溝橋に端を發した支那事変は、日中両国首脳の不拡大、局地解決の努力にもかかわらず、逐次戦面は拡大して中支方面にも波及し、全面的な戦争状態となっていました。この史料は、畑軍司令官着任時の「訓示」で、「作戰ノ前途ハ遼遠ニシテ軍ノ任務ハ益々重大ナルモノアル(中略)武勲赫々タル団下諸隊ノ忠勇ニ信倚シ以テ負託ニ対(コタ)ヘ奉ラント欲ス」と述べています。畑軍司令官は、その在任一年足らずの間に、徐州会戦(昭和13年4月～6月)と武漢攻略作戦(同年6月～10月)を指導します。



**敗戦回顧** (登録番号: 中央-作戰指導回想手記-271)

中支那派遣軍司令官のあと、阿部内閣、米内内閣の陸軍大臣を務めた畑大将は、支那派遣軍総司令官などを経て、昭和20年4月7日、西日本の防衛を担当する第2総軍司令官に就任、終戦を迎えます。この史料は、報知新聞の記者で戦時中から畑と親交があった佐野増彦氏が畑筆記の原本から筆写した「敗戦回顧」です。この中で畑は、敗戦の原因を「陸軍の責任」、「海軍の責任」、「陸海軍統帥部の責任」、「陸軍部内の不統一」に分けて記述するとともに、「陸軍幕僚の教育の不備」として「計画者指揮官が物的質と量に綿密周到なる計画等に疎く(中略)科学的事務的教育の不備を暴露した」と述べています。従って「我国将来の教育は(中略)科学的に組織的に物事を観察処理するの習慣を養成教育する必要最大なり」としています(『元帥畑俊六回顧録』錦正社、2009年)。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影にともない、一時的に閲覧できない史料があります。

詳しくは、防研ウェブサイト「閲覧が一時不能となる史料」をご覧ください。

※ 記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断転載・複製はお断りします。  
防衛研究所企画部企画調整課  
専用線：8-6-29171、29175 (史料紹介コーナーのみ29651)  
外線：03-3260-3011  
FAX：03-3260-3034 ※ 防衛研究所ウェブサイト：www.nids.mod.go.jp